

自分の命を 自分で守る ために

令和6年度版



自分の命を自分で守るために

- ① 近年の被災事例 2
洪水・土砂災害で犠牲になった事例
洪水・土砂災害から逃られた事例
- ② 避難するときに注意! 3
一般的に注意すること
大雨に備えての避難のポイント
土砂災害に備えての避難のポイント
- ③ 災害に備える 5
洪水・土砂災害から身を守るために知っておきたいこと

④ 地震に備える 7

「何時でも、何処でも、誰でも」地震に遭う
地震で揺れてもあわてない
2階の方が安全だ
地震の時、一人で、勝手に行動しない

令和5年度の災害を振り返る 8

みなさんに伝えたい、知ってほしい!防災情報 16

1

近年の被災事例

洪水・土砂災害で犠牲になった事例

災害名	被災原因	概要
令和3年8月豪雨 (2021/8/13)	・洪水 ・道路流失 ・車移動	広島市安佐北区安佐町飯室では、8月13日午前と同地区内を流れる鈴張川で車が流され、14日にこの場所から30km前後離れた同県廿日市市宮島町の瀬戸内海で60代女性が遺体で発見された。災害直後の報道映像では、現場付近では鈴張川右岸に河道と直面して並行する道路が長さ約20mにわたり流失しており、この箇所に転落した可能性が高いと推定される。
令和3年8月豪雨 (2021/8/13)	・洪水 ・見回り ・夜間	熊本県人吉市七地町の球磨川では、所有する舟の様子を見に行った同市に隣接する錦町内在住の76歳男性が行方不明となり、8月18日に下流の八代市で発見された。遭難場所はだまかにしか推定できないが、川に接近していたことは確実であり、原因外力は「河川」と分類した。遭難時刻も不詳だが、13日夕方から夜にかけての可能性がある。
令和3年8月豪雨 (2021/8/14)	・洪水 ・見回り	広島県東広島市では、8月14日昼前に田んぼの水を見に行くと自宅から出た同市志和町奥屋在住の83歳男性が行方不明となり、18日に下流の広島市内の元安川河口付近で遺体で発見された。遭難場所は推定できないが、居住地付近では目立った洪水の被害は確認できず、東広島市全体での家屋被害も床下浸水2棟であることも考えると、河川に接近・転落して死亡した可能性が高いと推定される。
令和4年7月14日 からの大雨 (2022/7/19)	・洪水 ・アンダーパス	近江八幡市安土町では、70代女性が徒歩移動中に洪水に巻き込まれ死亡した。現場は、JR線を横断方向に潜る歩道専用のアンダーパスで4方向から入り口があり、犠牲者は線路横断方向と直行する方向の入り口から進入したとみられている。現地で計測したところ、アンダーパス部分は高さ約2.7mで、現地に示された掲示物によるとピーク時には完全に水没していた。
令和4年8月3日 からの大雨 (2022/8/3)	・洪水 ・見回り	岩手県では、一戸町宇別の70代男性が3日18時頃に自宅近くの農業用ハウスの様子を見に行った後、行方不明となった。農業用ハウスのすぐそばを流れる宇別川が増水し、川に流されたとみられる。男性は川の下流にある大志田ダムで遺体として発見された。
令和4年8月3日 からの大雨 (2022/8/3)	・洪水 ・道路橋流失 ・夕方夜間移動 ・車移動	山形県では、飯豊町小白川で県道の橋が洪水の影響により崩落し、車ごと流されたとみられる80代男性が行方不明となった。3日17時頃に男性の実家が浸水し始めていたことから土嚢を届けようと車で移動中に遭難したとみられる。遭難場所は、河川の直上で地形的には低地である。遭難場所付近に堤防はなく、緩い下り坂の先に橋があるという道路断面だった。橋梁流失に車が巻き込まれ犠牲者が出たケースと思われる。
令和4年台風11号 及び前線に伴う大雨 (2022/9/2)	・洪水 ・見回り	奈良県で発生した犠牲者事例は、9月2日に同県桜井市で70代女性が田んぼの様子を見に行き、用水路に転落したものである。
令和4年台風14号 (2022/9/18)	・洪水 ・夕方夜間移動 ・車移動	19日朝、宮崎県都城市高城町では水没した乗用車内で60代男性が死亡して発見された。18日17時頃に自宅を出て以降、行方が分からなくなっており、発見時には乗用車の高さ程度まで浸水していたとのことである。発見場所は水田だが脇に道路があり、通行中に流されたかと推察される。
令和4年台風15号 (2022/9/24)	・土砂 ・裏山斜面崩壊 ・2階建1階倒壊	掛川市遊家では24日0時55分頃、住宅が倒壊したとの119番通報があったとのことである。現場は同一敷地内に複数の建物があり、建物の裏山斜面が崩壊し、2階建ての離れの1階部分が倒壊していた。この建物内で40代男性が亡くなった。普段からこの建物の2階で寝泊まりしており、被災当時は外で物音がしたので様子を見に下りたところ巻き込まれた模様である。

洪水・土砂災害から逃れられた事例

災害名	成功要因	概要
平成29年 九州北部豪雨	・自分たちの避難 判断の目安 ・早期自主避難	朝倉市平榎地区(37世帯92人)では、複数の住宅が流されたり床上まで浸水したりして大きな被害が出たが、住民は全員無事であった。その背景に、住民たちが自主避難を判断する目安を作っていたことがある。この地区は、5年前の「平成24年九州北部豪雨」で、小さな川のそばにある住宅が床上まで水につかる被害が出た。それ以来、住民たちは、この住宅の状況を避難のための目安にしていたのである。住民同士すぐに声をかけ合って高い場所にある住宅に避難を始めた。すると、その約1時間後に濁流が地区を襲った。この目安が、早期の自主避難、人的被害ゼロにつながった。
令和5年 6月29日からの大雨	・水害危険性の認識 ・避難確保計画 ・避難訓練 ・垂直避難	令和5年7月10日の大雨により、福岡県久米市にある田主丸中央病院では、明け方から病院内に水が流れ込み、1階部分が30cm程浸水したが、1階入居者約50人を2階に垂直避難させ、人的被害はなかった。施設ではハザードマップを通して、河川氾濫など水害の危険性を認識していた。水防法に基づく避難確保計画を作成しており、毎年避難訓練を実施するなど災害に対する備えの意識が高かった。

2

避難するときに注意!



地震、津波、洪水、土砂災害、そして火災などの危険が迫った時、あなたならどうしますか？ 危険が迫った時の避難行動は、あなただけでなく、あなたの家族や近所の方々を救う大切な手段です。これから、災害が起こった時の避難のポイントを見ていきましょう。

避難の一般的な注意点としては、次のような点が挙げられます。

一般的に注意すること

● 早めの避難



私たち人間は、危険が迫るぎりぎりまで自分は大丈夫だという気持ちを持ちがちです。その結果が「逃げ遅れ」につながります。「空振りですり」気持ちで、早めに避難することが大切です。

● 正しい情報による避難



避難の際、情報は大変重要なものです。多様な手段から正しい情報を入手して、落ち着いて避難しましょう。

● 徒歩による避難



車での避難には、水に流されたり、浸水した車から脱出できなかつたりといったさまざまな危険が潜んでいます。原則として徒歩で避難しましょう。

● 避難の際の隣近所に声掛け



自分が危険を察知しても、隣近所の方が気づいていないことも考えられます。避難の際は、大きな声で避難を呼び掛けましょう。その際、お年寄りや身体の不自由な人など自力で避難することが難しい人がいたら、可能な限り避難の手助けをしましょう。

● 普段から避難場所・避難経路を知っておくこと

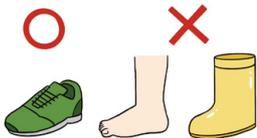


避難しなければならない状況に、いつ遭遇するかわかりません。その時になって慌てないように、普段から避難場所や避難経路を家族で確認しておきましょう。

大雨に備えての避難のポイント



原則は、浸水する前に避難することです。浸水してからの避難はさまざまな危険があります。自治体などからの情報に注意して早めの避難を心がけてください。特に、自治体から避難指示が出された場合はためらわずに避難しましょう。自治体からの情報がない場合でも、住んでいる場所の条件などによって危険となる場合がありますので、危険を感じたらすぐに避難します。特に子どもやお年寄り、体の不自由な人がいる場合は早めに避難しておきます。



避難するときは、紐で締められるなど、脱げにくく歩きやすいものを履いて外へ出ます。



氾濫した水の流れは勢いが強いので、水深が膝程度あると大人でも歩くのが困難になります。緊急安全確保として、高い堅牢な建物にとどまることも選択の一つです。氾濫した水は、茶色く濁っており、水路と道路の境や、ふたが空いているマンホールの穴は見えません。他のルートでの避難や自宅などの浸水しない場所に留まることを検討しましょう。



ところで、避難というと、「車で逃げる」ことを思い浮かべる人も多いかもしれません。しかし、車での避難には移動中に洪水等に見舞われることや、渋滞を発生させるおそれがあることを覚えておいてください。

2

避難するときに注意！

土砂災害に備えての避難のポイント

土砂災害の危険箇所付近にお住まいの方にとって、天気予報で、土砂災害の危険が迫っていると注意の呼びかけを聞いたときは大事なタイミングです。何の異常を感じなくても、「念のため避難しておく」この心構えが命を救います。

一般的な土砂災害の前兆現象に注意しましょう。ただし、いつも前兆現象があるとは限りません。

前兆現象を知った段階では、すでに危機が目の前に迫っています。土砂災害は瞬時に起きます。少しでも普段と変わった現象を発見したら、無駄にならうとも素早い避難が必要です。

なお、この段階での避難では間に合わない可能性があることも理解しておいてください。

▲ 土石流

特徴

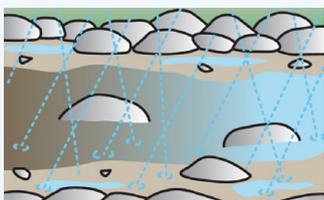
山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象。時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまうことも。



主な前兆



①川の流れがにごり、流木が混じりはじめる



②雨は降り続けているのに川の水位が下がる



③山鳴りがする

▲ 地すべり

特徴

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。土塊の移動量が大きいいため甚大な被害が発生。



主な前兆



①沢や井戸の水がにごる



②地割れができる



③斜面から水が噴き出す

▲ がけ崩れ

特徴

斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象。崩れ落ちるまでの時間がごく短いため、人家の近くでは逃げ遅れも発生し、人命を奪うことが多い。



主な前兆



①がけから小石がパラパラと落ちてくる



②がけから水が湧き出ている



③がけに割れ目が見える

3

災害に備える

洪水・土砂災害から身を守るために知っておきたいこと

洪水・土砂災害に備えて! ①お住まいの場所が、危険な場所か確認しましょう

- 洪水のおそれがある地区は「洪水浸水想定区域」、土砂災害のおそれがある地区は「土砂災害警戒区域」等とされています。普段から自分の家がこれらの洪水・土砂災害のおそれがある地区にあるかどうか、国土交通省の「[ハザードマップポータルサイト](#)」などで確認しましょう。
 - また、避難の際にどこにどのように逃げるのか知っておくことが大事です。避難場所や避難経路を確認しましょう。
- ※洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域等は危険な地域を表示するものであり、表示がない地域を安全な地域として表示しているものではありません。



水害リスク①	浸水の目安が5m以上 (2階屋根以上浸水) または家屋倒壊等氾濫想定区域内	広域避難 (他の浸水しない地区に)
水害リスク②	浸水の目安が3m~5m(2階浸水) または家屋倒壊等氾濫想定区域内	水平避難 (指定緊急避難場所に)
水害リスク③	浸水の目安が0.5m~3m未満 (1階床上浸水) または0.5m未満(1階床下浸水)	垂直避難 (家の2階以上に)
水害リスク④	浸水想定区域外	不要・不急の 外出は避ける

洪水・土砂災害に備えて! ②いざという時のとるべき行動を決めておきましょう

- 台風の接近時などに、「いつ」・「何をするのか」を住民一人ひとりに合わせて、あらかじめ時系列で整理した自分自身の避難行動計画である「マイ・タイムライン」とスマートフォンアプリの防災情報のプッシュ通知機能などデジタル技術を融合しました。
- 地域のワークショップによる平時におけるマイ・タイムラインの検討の過程で、自宅の浸水リスクや逃げるタイミング等をスマートフォンに登録しておき、水害などの危険が迫った際には、自らが決めた避難のトリガー情報のプッシュ通知により、確実な避難行動を後押しします。
- 今が、マイ・タイムラインのどの段階か一目で確認ができます。
- 支援が必要な方のマイ・タイムラインを共有することもできます。



雨が降り始めたら! ③お住まいの場所の危険度を確認しましょう(避難のタイミング)

色が持つ意味	相当する警戒レベル	とるべき行動		
		土砂災害	大雨警戒(浸水害)	洪水
災害切迫	5	命の危険、直ちに身の安全を確保!		
警戒レベル4までに必ず避難!				
危険	4	土砂災害警戒区域等の外に避難する	各自の判断で、屋内の浸水が及ばない階に移動	一定の水位を超えている場合には安全な場所に避難する
警戒	3	高齢者等 の方は土砂災害警戒区域等の外に避難する 高齢者等以外 の方は普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自ら避難の判断をする	安全確保行動をとる準備	高齢者等 の方は一定の水位を超えている場合には安全な場所に避難する 高齢者等以外 の方は普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自ら避難の判断をする
注意	2	土砂災害警戒区域等や避難先、避難経路を確認する	各自の判断で、住宅の地下室からは地上に移動し、道路のアンダーパスには近づかないようにする	避難行動を確認する
今後の情報等に留意	1	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意		

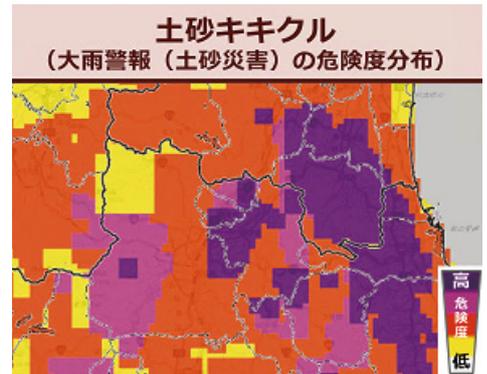


3

災害に備える

土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)

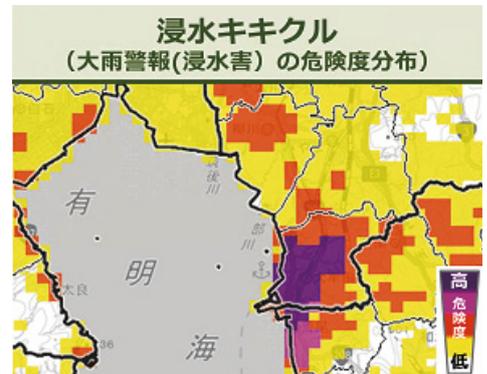
- 大雨による土砂災害発生の危険度の高まりを地図上で5段階に色分けして示す情報です。
- 10分毎に更新しており、土砂警戒情報や大雨警報(土砂災害)等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。
- 土砂災害発生の危険度が高まっている地域にお住まいの方は、土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所に、早めの避難を心がけてください。



浸水キキクル(大雨警報(浸水害)の危険度分布)

- 短時間強雨による浸水害発生の危険度の高まりの予測を示しており、大雨警報(浸水害)等が発表されたときに、どこで危険度が高まるかを面的に確認することができます。
- 1時間先までの表面雨量指数の予測値が大雨警報(浸水害)等の基準値に到達したかどうかで、危険度を5段階に判定し、色分けしています。

※表面雨量指数: 地面の被覆状況や地質、地形勾配などを考慮して、降った雨が地表面にどれだけ溜まっているかを数値化したもので、短時間強雨による浸水危険度の高まりを把握するための指標です。



洪水キキクル(洪水警報の危険度分布)と水害リスクライン(国管理河川の洪水の危険度分布)

- 洪水キキクルは中小河川の洪水危険度を伝え、水害リスクラインは大河川のきめ細かな越水・溢水の危険度をお知らせするものです。洪水キキクルのサイトで一体的に表示しています。
- 洪水キキクルは、大雨による中小河川(水位周知河川及びその他河川)の洪水災害発生の危険度の高まりを5段階に色分けして地図上に示したものです。危険度の判定には3時間先までの流域雨量指数の予測値を用いており、中小河川の特徴である急激な増水による危険度の高まりを事前に確認することができます。
- 水害リスクラインは大雨による大河川(国管理河川)のおよそ200mごとに推定した水位と堤防等の高さを比較し、越水・溢水の危険度を5段階に色分けして地図上に示したものです。

※流域雨量指数: 全国の約20,000河川を対象に、河川流域を1km四方のメッシュに分けて、降った雨水が、地表面や地中を通して時間をかけて河川に流れ出し、さらに河川に沿って流れ下る量を数値化したもので、河川の上流域に降った雨により、どれだけ下流の対象地点の洪水危険度が高まるかを把握するための指標です。



豪雨になる前に! ④高齢者等はレベル3で避難を、その他の方もレベル4で避難をしましょう

- お住まいの地域に警戒レベル4相当情報(土砂災害警戒情報、キキクル「危険」(紫)、氾濫危険情報など)が発表されたら、自治体からの警戒レベル4避難指示の発令に留意し、地域内の方々に声をかけあい近くの避難場所など、安全な場所に避難しましょう。特に、お年寄りや障害のある人など避難に時間がかかる人や、夜中に大雨が想定される場合は、警戒レベル3相当情報(大雨警報(土砂災害)、洪水警報、キキクル「警戒」(赤)、氾濫警戒情報など)高齢者等避難が発令されたタイミング等で早めに避難することがより安全です。
- 洪水・土砂災害の多くは木造の1階で被災しています。浸水などで避難場所への避難が困難なときは、近くの頑丈な建物の2階以上や、家の中でより安全な場所(がけから離れた部屋や2階など)に移動しましょう。

4

地震に備える

1. 「何時でも、何処でも、誰でも」地震に遭う

世界の約10%の地震が発生する世界有数の地震国といわれる日本では、各地で地震が頻発しています。

戦前から終戦直後にかけての大地震といえば関東大震災や福井地震を思い出しますが、被害が大きかった地震はこれだけではありません。

古くは1854年7月に安政伊賀地震、12月23日に安政東海地震、その32時間後の24日には安政南海地震が発生し、この3つの地震による死者数は、約1~3万人といわれています。また、翌年には安政江戸地震(1855年11月11日)が襲い、死者は7千から1万人にのぼりました。明治から現在までに、100人以上の死者・行方不明者を出した地震・津波の発生回数は、20回を超えます。

平成(1989)になってからも、北海道南西沖地震(1993年)、兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災1995年)、新潟県中越地震(2004年)、福岡県西方沖地震(2005年)、能登半島地震(2007年)、新潟県中越沖地震(2007年)、岩手・宮城内陸地震(2008年)、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災・2011年)等、人的被害を伴った地震は、125回を超えています。

沿岸部での津波やがけ崩れ、山間部での土砂崩れなどを引き起こし、家屋・建物の倒壊や火災などによって、大きな被害の発生が全国各地で繰り返されています。

平穏に暮らす大地の下で地殻の変動はいまも絶え間なく続いています。

2. 地震で揺れてもあわてない

1995年兵庫県南部地震(1月17日午前5時46分)では、早朝で就寝中の人も多かったということもあり、死者6,434人の約9割は建物の倒壊や家具の転倒による圧死でした。

一方、負傷者43,792名の内、家具の転倒、落下物、散乱したガラスの破片などによってケガをした人は75%近くに上ります。震度7を記録した地域では、室内の家具が散乱したり、物が破壊されたりした割合は6割以上に及んでいます。

東京消防庁の調査では、近年発生した直下地震でケガをした原因は、約30~50%の人が、家具類の転倒、落下、移動によるものでした。これらの物は、直接あたってケガをするだけでなく、つまずいて転んだり、割れた食器やガラスを踏んだり、避難通路をふさいだりするなど、いろいろな危険をもたらします。

東京都防災会議地震部会では、今後30年以内に70%の確率で起きるとされるマグニチュード7級の地震が東京都で起きると、最悪の場合、死者約6,148人、負傷者約93,435人になると想定しています。(首都直下地震等による東京の被害想定(令和4年5月25日公表))

揺れの動転からあわてて行動して転倒したり、転倒した家具や落下物で負傷したりする人が多くいます。振動と家具の転倒や室内破損が気持ちを狼狽させ、冷静さを失った行動につながり、負傷の機会が増加して悪い連鎖が起こっています。

3. 2階の方が安全だ

阪神・淡路大震災で亡くなった人の死因は「圧死」が大部分(88%)を占めており、焼死は約1割でした。多くは古い木造家屋が倒壊し、家屋の下敷きになって即死しています。特に2階屋では1階で就寝中に圧死しています。

2階建ての木造住宅の場合は屋根瓦と2階の重みで1階の柱が折れて潰れるケースが多かったのですが、建物が倒壊しても2階の場合は生存のスペースが残りやすく、2階での死者は1階に比べて圧倒的に少なかったとされています。

また、大きく揺れても2階の方が安全ですから、階段を急いで降りないように! 足をすべらせケガをします。

生き残った被災者たちからは「突然の震動で目が覚めると間髪をおかずに2階が崩れ落ちてきて、布団に横たわったままの状態夫婦共に身動きがとれなくなってしまったのですが、コタツの掛け布団と寝ている布団がクッションになって落ちてきた天井などをかろうじて支えてくれたので圧死を免れました(中略)、2階にいた息子が自力ではい出せず、近所の方たちが駆けつけてくれて7時間後に救出されたのです」(神戸市の夫婦)、「わたしたちは2階で寝ていたから助かったけど、下で寝ていたら完全にやられていたと思います。1階の天井が完全に落ちて、2階部分が1階のようになってしまいましたから(後略)」(淡路市の60代女性)といった証言が寄せられています。

4. 地震の時、一人で、勝手に行動しない

阪神・淡路大震災では、被災地外からの応援救助部隊だけでなく、救助のための重機材運搬車両、救急患者の輸送車両も、交通渋滞に巻き込まれ、救助活動が大幅に遅れる一因となりました。

渋滞の最大の原因は、落橋などによる幹線道路と鉄道の寸断でしたが、安否確認や見舞など、個人の行動による車の移動も渋滞に拍車をかけました。

救助部隊を円滑に到着させる交通規制は必要であり、支障がない限り個人的な安否確認や救援物資の輸送のために自動車被災地に入ったり、被災地内を移動したりすることは控えることが必要です。

また、避難した直後に火災や建物の倒壊の危険があるにもかかわらず、家財の安全確認や貴重品の持ち出しなどのために被災現場に戻る人も後を絶たず、交通混乱に拍車をかけると同時に、二次災害の助長につながったケースもあります。

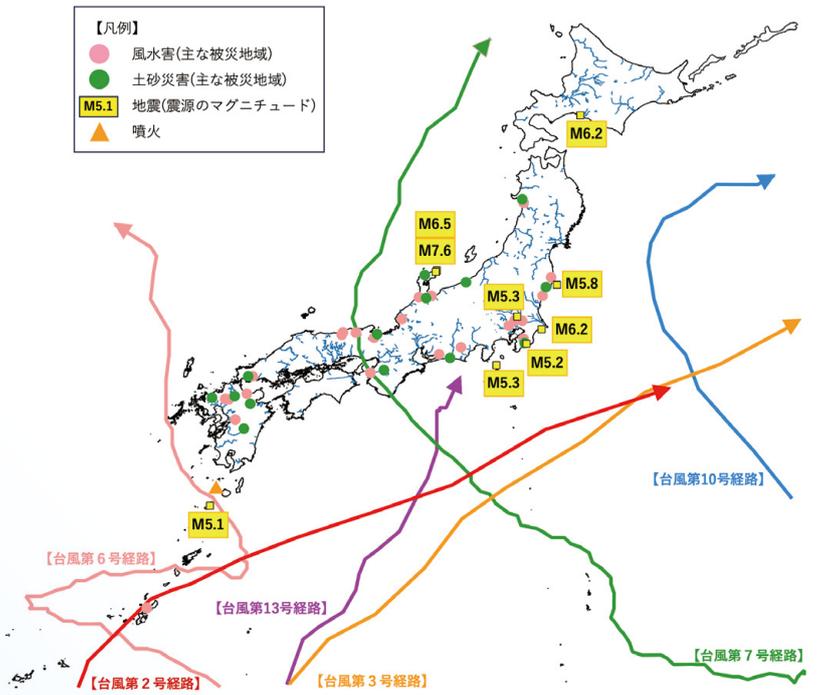
避難所に落ち着いても、買い物などに出かけるときや一度家へ帰るときは、できるだけ複数の人と行動するようにしましょう。余震や地面の凹凸で思わぬケガをする危険性があります。



令和 5年度 の災害を振り返る

令和5年度の災害は、6月上旬から中旬にかけて停滞した前線により西日本から東日本の太平洋側を中心に大雨、6月下旬から7月上旬にかけて梅雨前線や上空の寒気の影響による沖縄地方を除いて全国的な大雨、7月中旬には東北地方に前線が停滞し東北地方の北部を中心に大雨、9月には台風第13号により関東甲信越や東北地方の太平洋側では大雨となり、大きな被害が発生した。

また令和6年1月1日に最大震度7の地震が石川県志賀町で発生した。



京都府舞鶴市 令和5年8月



秋田県五城目町 令和5年7月

主な災害

風水害(床上浸水10戸以上)

(主な被災地域)

2023年 5~6月	台風第2号及びそれに伴う前線の活発化による大雨	茨城県、埼玉県、東京都、静岡県、愛知県、和歌山県
6~7月	6月29日から的大雨	富山県、石川県、福井県、鳥取県、山口県、福岡県、佐賀県、熊本県、大分県
7月	7月15日から的大雨	秋田県
7~8月	台風第6号	沖縄県
8月	台風第7号	京都府、兵庫県、鳥取県
9月	台風第13号	福島県、茨城県、千葉県

土砂災害(人家被害が5戸以上)

(主な被災地域)

2023年 5~6月	台風第2号及びそれに伴う前線の活発化による大雨	静岡県、和歌山県
6~7月	6月29日から的大雨	福岡県、佐賀県、大分県、山口県
7月	7月15日から的大雨	秋田県
7~8月	台風第6号	宮崎県
8月	台風第7号	京都府
9月	台風第13号	福島県、千葉県
2024年 1月	令和6年能登半島地震	石川県、新潟県、富山県、福井県

火山噴火(噴火警戒レベル3以上)

(主な被災地域)

2023年 6月	口永良部島(レベル3)	鹿児島県屋久島町
-------------	-------------	----------

地震(最大震度5弱以上)

(震源地)

(主な被災地域)

2023年 5月	能登半島沖(M6.5)	(6強)石川県珠洲市 (5強)石川県能登町 (5弱)石川県輪島市
	千葉県南部(M5.2)	(5強)千葉県木更津市 (5弱)千葉県君津市
	トカラ列島近海(M5.1)	(5弱)鹿児島県十島村
	新島・神津島近海(M5.3)	(5弱)東京都利島村
	千葉県東方沖(M6.2)	(5弱)茨城県神栖市、千葉県銚子市、旭市
6月	苫小牧沖(M6.2)	(5弱)北海道千歳市、厚真町、浦河町
2024年 1月	令和6年能登半島地震(M7.6)	(7)石川県輪島市、志賀町 (6強)石川県七尾市、珠洲市、穴水町、能登町 (6弱)新潟県長岡市、石川県中能登町 (5強)新潟県糸魚川市、上越市、妙高市、三条市、柏崎市、見附市、刈羽村、南魚沼市、燕市、阿賀町、新潟市、佐渡市、富山県富山市、舟橋村、高岡市、氷見市、小矢部市、南砺市、射水市、石川県羽咋市、宝達志水町、金沢市、小松市、加賀市、かほく市、能美市、福井県あわら市 (5弱)新潟県小千谷市、加茂市、十日町市、出雲崎町、五泉市、阿賀野市、富山県滑川市、黒部市、上市町、立山町、朝日町、砺波市、石川県津幡町、内灘町、白山市、福井県福井市、坂井市、長野県長野市、信濃町、栄村、岐阜県高山市、飛騨市
	3月	福島県沖(M5.8) 茨城県南部(M5.3)



浸水被害

台風第2号及びそれに伴う前線の活発化による大雨

台風第2号が5月31日から6月2日にかけて沖縄地方にかなり接近した。台風により、沖縄・奄美では大雨となった所があり、非常に強い風が吹いて、海上は猛烈なしけとなった。

梅雨前線が1日から3日午前中にかけて本州付近に停滞した。前線に向かって台風周辺の非常に暖かく湿った空気が流れ込んだため、2日には前線の活動が活発になった。

西日本から東日本の太平洋側を中心に大雨となり、高知県、和歌山県、奈良県、三重県、愛知県、静岡県で線状降水帯が発生した。1時間に80ミリ以上の猛烈な雨が降り、1時間降水量が観測史上1位の値を更新した地点があった。また、降り始めからの雨量は東海地方で500ミリを超えたほか、四国地方、近畿地方、関東地方でも400ミリを超え、平年の6月の月降水量の2倍を超えた地点があった。

国管理河川では3水系3河川、都道府県管理河川では27水系41河川で氾濫し浸水被害が発生した。

また、158ダムにおいて洪水調節(事前放流55ダムを含む)を実施した。

浸水被害

この大雨の影響で、国管理河川では大和川水系大和川で溢水に伴う道路の冠水、那賀川水系桑野川で無堤部の田畑の冠水、豊川水系豊川で霞堤部の浸水被害が発生した。



都道府県管理河川では、愛知県管理の豊川水系善光寺川で流入先の豊川放水路の水位上昇に伴い氾濫が発生し、大規模な浸水被害が発生した。また、静岡県管理の太田川水系敷地川において、昨年の災害からの仮復旧のための大型土のうが流出・決壊し、浸水被害が発生した。

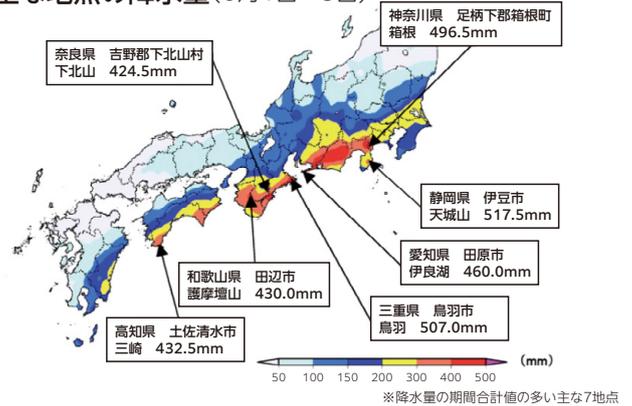


愛知県豊川市

●被害状況(消防庁情報第17報R6.3.6)

人的被害	死者	6人	静岡2、愛知1、和歌山2、沖縄1
	うち災害関連死者	1人	和歌山1
	行方不明者	2人	神奈川1、和歌山1
	重傷者	5人	神奈川2、山梨2、和歌山1
住家被害	軽傷者	44人	茨城5、埼玉5、千葉3、神奈川12、静岡1、愛知2、三重1、和歌山4、沖縄11
	全壊	21棟	茨城1、東京3、静岡3、愛知3、兵庫1、奈良1、和歌山9
	半壊	536棟	茨城331、埼玉13、千葉1、長野1、静岡16、愛知142、奈良5、和歌山27
	床上浸水	2,398棟	茨城25、埼玉827、千葉7、東京33、静岡176、愛知350、三重7、奈良6、和歌山964、高知3
	床下浸水	6,961棟	茨城421、栃木1、埼玉3,221、千葉33、東京26、長野10、岐阜23、静岡248、愛知688、三重44、大阪10、奈良66、和歌山2,133、愛媛3、高知34
一部破損	197棟	茨城12、埼玉31、千葉25、東京14、神奈川7、山梨1、長野3、静岡39、愛知25、三重1、滋賀1、大阪17、兵庫1、奈良3、和歌山16、鹿児島1	

■主な地点の降水量(6月1日~3日)



太田川水系敷地川(静岡県磐田市)



龍の川越水 和歌山県和歌山市



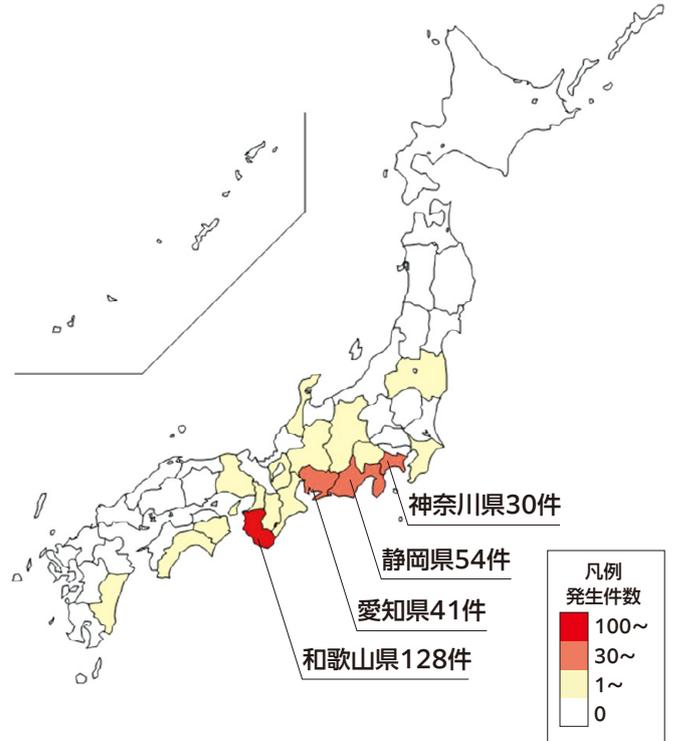
土砂災害

台風第2号及びそれに伴う前線の活発化による大雨

●土砂災害(国土交通省情報R5.8.7)

発生件数	土石流等	26件	
	地すべり	9件	
	がけ崩れ	293件	
被害状況	人的被害	死者	1名
		負傷者	1名
	家屋被害	全壊	5戸
		半壊	3戸
		一部損壊	62戸

この大雨の影響で、和歌山県をはじめ、328件の土砂災害が発生した。



6/2 土石流等の状況 和歌山県有田郡有田川町二澤



6/2 がけ崩れの状況 神奈川県横須賀市西浦賀5丁目



6/2 土石流等の状況 愛知県豊川市御津町広石御津山



6/2 土石流等の状況 長野県飯田市南信濃南和田



6/2 地すべりの状況 静岡県浜松市天竜区長沢

資料:国土交通省HP



浸水被害

6月29日からの大雨

6月28日から7月6日にかけては、活動の活発な梅雨前線や上空の寒気の影響で、沖縄地方を除いて全国的に大雨となった。

6月28日から7月6日の総降水量は、九州では700ミリを超え、九州北部地方を中心に平年の7月の月降水量を超えた地点があった。

また、7月7日から7月10日にかけては、梅雨前線が西日本から東北地方付近に停滞し、活動が活発となった。九州北部地方や中国地方を中心に、大雨となった。総降水量は、九州北部地方で600ミリを超え、九州北部地方や中国地方では、4日間で平年の7月の月降水量を超えた地点があった。

7月11日から7月13日にかけては、本州付近に梅雨前線が停滞したほか、北海道付近を低気圧が通過し、山陰や北陸地方、北海道地方を中心に大雨となったところがあった。

国管理河川では6水系9河川、都道府県管理河川では38水系112河川で氾濫し、浸水被害が発生した。

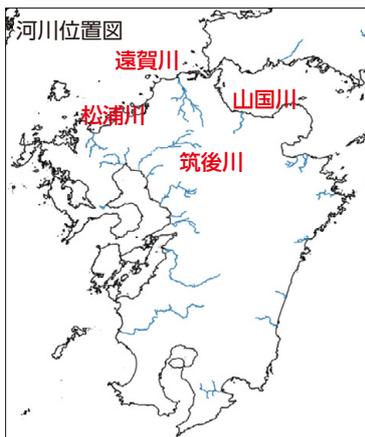
また、164ダムにおいて洪水調節(事前放流22ダムを含む)を実施した。

浸水被害

この大雨の影響で、国管理河川では佐波川水系、筑後川水系、松浦川水系、山国川水系、遠賀川水系、小矢部川水系で氾濫等が発生。また、遠賀川水系彦山川、筑後川水系巨瀬川で護岸の崩落・損傷を確認した。

都道府県管理河川では、15道県(北海道、富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、鳥取県、島根県、山口県、愛媛県、福岡県、佐賀県、熊本県、大分県、鹿児島県)において氾濫等が発生した。山口県管理の粟野川水系粟野川、神田川水系員光川では、堤防が決壊し、農地が浸水した。

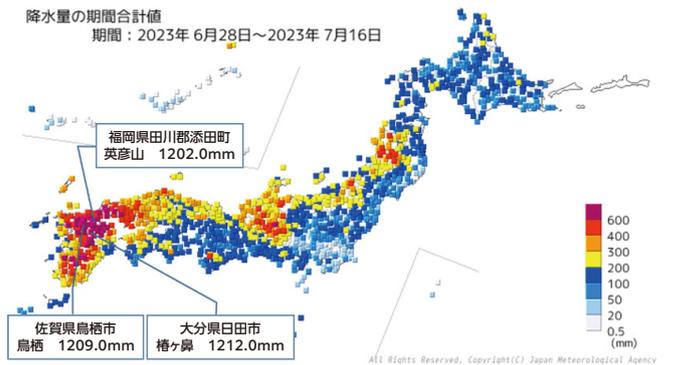
福岡県管理の筑後川水系広川、大分県管理の筑後川水系鶴河内川で河岸の家屋流出・損壊の被害が発生した。福岡県管理の筑後川水系巨瀬川では、がけ崩れにより河道に土砂が流れ込み、河川の流下を一部阻害した。



●被害状況(消防庁情報第34報R6.3.6)

人的被害	死者	13人	富山1、島根1、山口1、福岡5、佐賀3、大分2
	行方不明者	1人	山口1
	重傷者	10人	山口1、福岡7、大分1、鹿児島1
	軽傷者	9人	群馬1、千葉1、静岡2、福岡3、佐賀1、大分1
住家被害	全壊	63棟	石川7、福井1、山口3、愛媛3、福岡31、佐賀4、熊本1、大分13
	半壊	907棟	埼玉1、富山19、石川119、島根1、岡山1、広島1、山口195、愛媛43、福岡492、佐賀8、長崎1、熊本4、大分21、宮崎1
	床上浸水	1,250棟	福島3、富山69、石川51、福井16、岐阜1、鳥取13、島根9、山口202、福岡779、佐賀17、熊本26、大分63、鹿児島1
	床下浸水	5,005棟	福島8、茨城3、新潟20、富山729、石川258、福井133、長野3、岐阜2、京都4、鳥取44、島根80、岡山1、広島6、山口567、愛媛168、福岡2,649、佐賀87、熊本77、大分166
	一部破損	685棟	茨城69、栃木230、群馬2、埼玉18、千葉36、石川17、福井1、静岡24、大阪1、島根6、広島6、山口57、愛媛4、福岡150、佐賀39、熊本18、大分5、鹿児島2

■主な地点の降水量(6月28日~7月16日)



ちくごがわ こいしわらがわ たちあらいまち 筑後川水系小石原川(福岡県大刀洗町)(家屋浸水あり)



やまくにがわ やまくにがわ なかつし 山国川水系山国川(大分県中津市)(田畑等の浸水)



土砂災害

6月29日からの大雨

●土砂災害(国土交通省情報R5.8.21)

発生件数	土石流等	29件	
	地すべり	9件	
	がけ崩れ	359件	
被害状況	人的被害	死者	7名
		負傷者	14名
	家屋被害	全壊	21戸
		半壊	11戸
		一部損壊	61戸

この大雨の影響で、佐賀県をはじめ、397件の土砂災害が発生した。



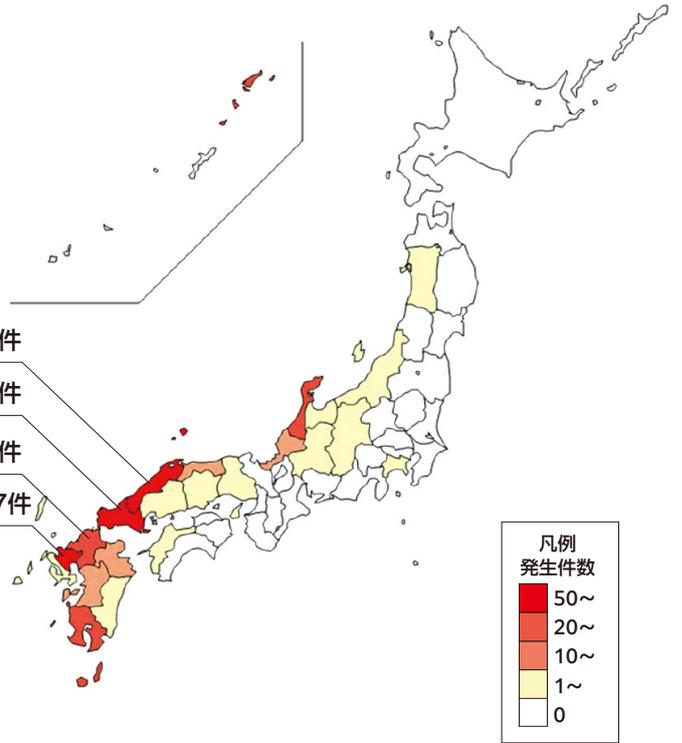
7/10 がけ崩れの状況 福岡県福岡市西区愛宕

島根県56件

山口県57件

福岡県40件

佐賀県87件



7/10 土石流等の状況 福岡県久留米市田主丸町竹野



6/30 地すべりの状況 大分県由布市湯布院町川西



7/10 土石流等の状況 佐賀県唐津市浜玉町平原



7/13 がけ崩れの状況 富山県南砺市砂子谷

資料:国土交通省HP



浸水被害

台風第13号

台風第13号は、5日から7日にかけて日本の南を北上して、8日には東海道沖へ進んで熱帯低気圧に変わった。

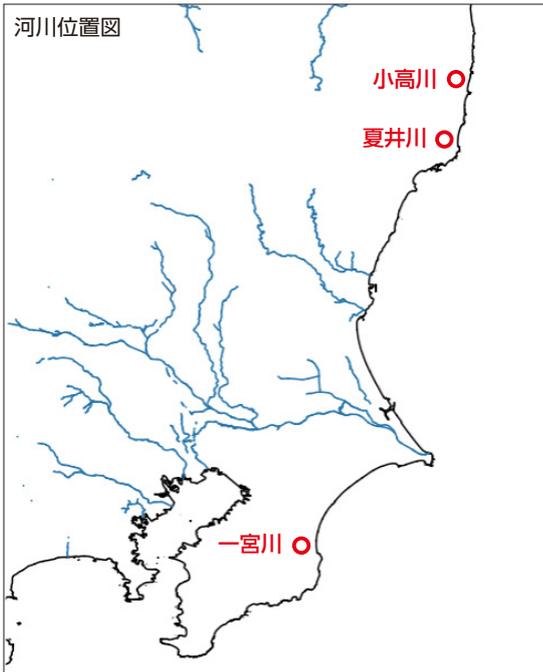
南から暖かく湿った空気が台風の東側に流入し、台風を中心から離れた場所で雨雲が発達して、関東甲信地方や東北地方の太平洋側では、8日から9日にかけて大雨となった。

東京都(伊豆諸島)、千葉県、茨城県及び福島県では、8日に線状降水帯が発生し、1時間に80ミリ以上の猛烈な雨が降った所があった。

これらの地域では、観測史上1位の1時間降水量を観測した地点があったほか、7日から9日にかけての総降水量が、400ミリを超えた地点や平年の9月の月降水量を超えた地点があった。

東京都(伊豆諸島)や静岡県では、8日は非常に強い風が吹き、これらの地域では、30メートルを超える最大瞬間風速を観測した所があった。

浸水被害



3県(福島県、茨城県、千葉県)で、県が管理する26水系40河川で氾濫が発生。このうち、福島県管理の小高川水系前川では、堤防が決壊し、農地が浸水した。

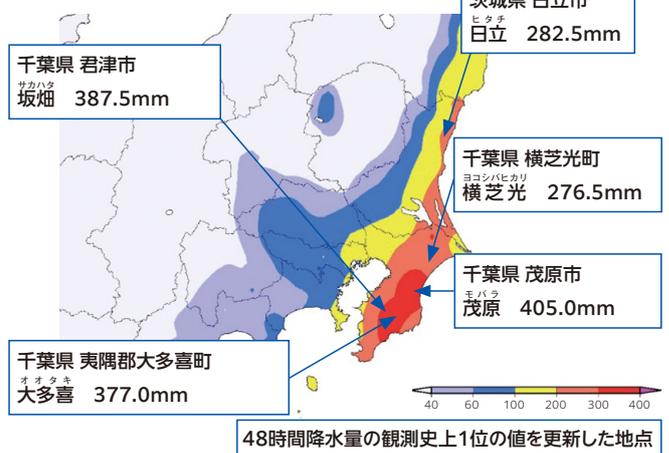
ダムとしては、46ダムが洪水調節(事前放流を含む)を実施した。

46ダムのうち、事前放流の基準に達したダム36ダム、事前放流を実施7ダム(うち、利水ダム7)、すでに事前放流の容量を確保したダムは29ダム(うち、利水ダム22)があった。

●被害状況(消防庁情報第12報R6.3.6)

人的被害	死者	3人	福島1、茨城2
	行方不明者	0人	
	重傷者	0人	
	軽傷者	21人	福島5、茨城2、埼玉1、千葉5、神奈川8
住家被害	全壊	19棟	福島11、茨城4、千葉4
	半壊	1,778棟	福島867、茨城580、千葉331
	床上浸水	794棟	福島37、茨城38、千葉718、東京1
	床下浸水	3,331棟	福島806、茨城1,014、千葉1,510、東京1
	一部破損	479棟	福島157、茨城177、千葉142、東京1、神奈川1、静岡1

■主な地点の降水量(9月7日~9日)



一宮川水系一宮川の浸水状況(千葉県茂原市)



夏井川水系新川・宮川の浸水状況(福島県いわき市)

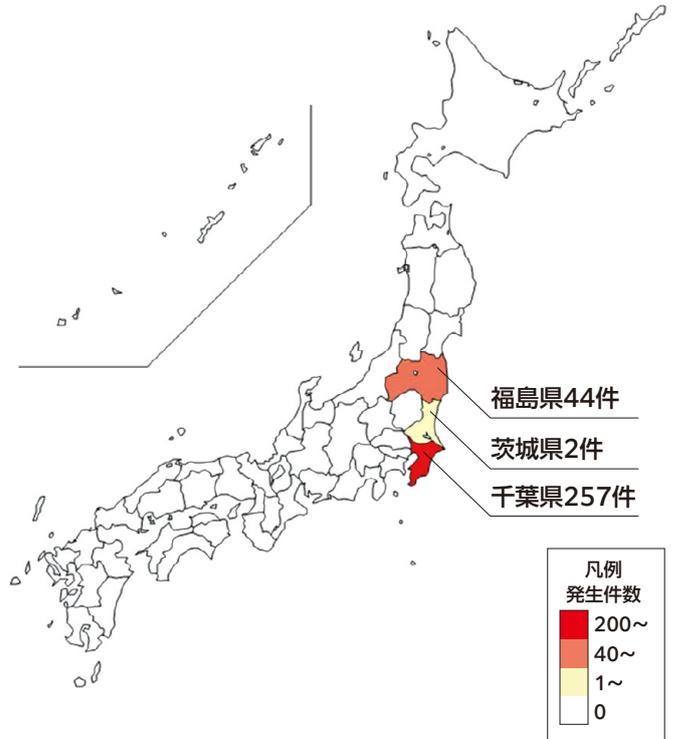


土砂災害 台風第13号

●土砂災害(国土交通省情報R5.11.1)

発生件数	土石流等	7件	
	地すべり	1件	
	がけ崩れ	295件	
被害状況	人的被害	死者	0名
		負傷者	2名
	家屋被害	全壊	1戸
		半壊	2戸
		一部損壊	27戸

この大雨の影響で、千葉県をはじめ、303件の土砂災害が発生した。



9/8 がけ崩れの状況 千葉県市原市月出



9/8 がけ崩れの状況 千葉県夷隅郡大多喜町会所



9/8 がけ崩れの状況 千葉県夷隅郡大多喜町小田代



9/8 がけ崩れの状況 福島県いわき市常磐藤原町



9/9 がけ崩れの状況 千葉県夷隅郡大多喜町泉水

資料:国土交通省HP



地震被害

令和6年能登半島地震による被害

●被害状況(消防庁情報第89報R6.4.2)



資料:石川県HP

令和6年1月1日16時10分に石川県能登半島を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生した。

石川県志賀町では、最大震度7を観測した。この地震で、石川県、新潟県、富山県、福井県など広範囲にわたり甚大な被害が発生した。

都道府県	人的被害(人)				住家被害(棟)						
	死者	行方不明者	負傷者		全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	一部破損	合計	
		重傷	軽傷	合計							
新潟県			5	44	49	102	2,899		14	18,526	21,541
富山県			3	44	47	232	687			14,796	15,715
石川県	245		312	877	1,434	8,361	15,388	6	5	52,365	76,125
福井県				6	6		12			579	591
長野県										18	18
岐阜県				1	1						
愛知県				1	1						
大阪府				5	5						
兵庫県				2	2						
合計	245		320	980	1,545	8,695	18,986	6	19	86,284	113,990



火山被害

〇永良部島の火山活動

〇永良部島では、6月27日から山体の浅いところを震源とする火山性地震が多発している。火山性地震は前24時間で50回発生した。

新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要である。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒が必要である。

このため、噴火警戒レベルを3(入山規制)としている。



〇永良部島 噴煙の状況(6月27日、本村西監視カメラ)



〇永良部島 古岳火口内及びその周辺の状況(無人航空機による観測2023年8月)



みなさんに伝えたい、知ってほしい！防災情報

日頃から知ってほしい防災情報と災害時に見てほしい防災情報



国土交通省防災ポータル

- 日頃から… ●被害想定 ●身の守り方 ●路線情報 ●国土交通省等の取組
- 災害時に… ●被害状況 ●気象情報 ●逃げるための情報 ●交通・物流情報
●被害者支援情報 ●安否情報 ●ライフライン情報 ●地域の情報
- いつでも… ●天気予報 ●気象警報・注意報 ●地震情報

身のまわりの危険性を知る（洪水、土砂災害、高潮、津波）

ハザードマップポータルサイト

洪水・土砂災害・高潮・津波のリスク情報、道路防災情報、土地の特徴・成り立ちなどを地図や写真に自由に重ねて表示します。



災害の危険が迫っているのを知る（洪水、土砂災害、浸水）



キキクル（危険度分布）

洪水・土砂災害・高潮・津波のリスク情報、道路防災情報、土地の特徴・成り立ちなどを地図や写真に自由に重ねて表示します。

災害の危険が迫っているのを教えてくれる（大雨・洪水警報）

危険度分布通知サービス（プッシュ型）

登録した地域の危険度が高まったときメールやアプリでお知らせします。



離れた家族などに危険が迫り避難が必要な時に



逃げなきゃコール

「逃げなきゃコール」は、離れた場所に暮らす高齢者等の家族の防災情報を、家族がスマートフォンアプリ等によりプッシュ型で入手し、直接家族に電話をかけて避難を呼びかける取組です。